

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302551		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 陽だまり 1階		
所在地	福島県郡山市富田町字菱内32		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には親水公園があり、春にはホーム前の河川の桜が満開になります。ご利用者様と一緒に農作業を行い、収穫した野菜を食卓に提供し、四季を肌で感じながら過ごしています。また、訪問診療や訪問看護との連携を図り、安心して生活して頂ける環境を提供しています。認知症になっても出来る事を行って頂き、人としての尊厳を保持する介護を目指します。

1. 開設より10年近く経過した事業所であり、本部の方針を基に事業所運営・人材育成・組織マネジメントのノウハウを活かした運営をしている。また、地域の特性に則した事業所理念を構築し、理念で謳われている「ありがとう」の感謝の心でケアサービスの提供を実践している。
2. 事業所内には畑があり、利用者職員と一緒に野菜を作り、収穫した野菜が食卓に上がり、収穫の喜びを実感しながら食事を味わう等、日常的に笑顔、会話の絶えない安心した穏やかな生活が営まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスに基づいた理念を構築し、職員は理念を達成すべく、業務に取り組んでいる。	開設当初、全職員で構築した理念は入口付近に掲示されており、職員が理念で謳われている「ありがとう」の心を常に持ち、感謝の心でケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、早朝清掃、お祭り等に参加している。ホーム前の道路は犬の散歩コースとなっており、いつも挨拶をかわしている。	事業所の周りでの散歩時に、地域の住民の方と挨拶を交わしたり、町内会主催の清掃やお祭り等の行事へ積極的に参加している。また、事業所主催の花火大会やボランティア、サークル活動の受け入れ等、日常的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の婦人会の方達を定期的に慰問に招いたり、保育園児を行事に招いたり、交流を図っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や課題を検討し、提言や意見をスタッフ会議内で報告、討議している。意見の内容は本社に報告し、共有している。	地域包括支援センター保健師、老人クラブ、民生員、郡山市委託相談員等の参加の中、事業所の運営状況や課題等について詳細な報告がされている。参加者からの質問や意見・要望についても本部と連携を図りながら対応している。	平成26年4月の運営推進会議から家族代表者の参加がないので早急に委員として委嘱することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護サービス相談員に定期的な訪問や運営推進会議の出席を頂き、協力関係が構築出来ている。	郡山市委託相談員が、毎月2回事業所へ訪問し、事業所及び利用者とのコミュニケーションを図っている。また、運営推進会議にも参加してもらい、事業所の実情を伝達しながら、郡山市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護に関するマニュアルを周知し、研修に参加している。また、日中は玄関も施錠せず、身体拘束は一切行っていない。	法人内で職員を対象とした身体拘束廃止や権利擁護に関する研修を実施している。受講者による事業所内伝達研修を通じて全職員に周知している。また、マニュアルは常時閲覧できる場所に置かれ、身体拘束防止の見守り、寄り添い等の対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを周知し、研修に参加している。職員間で注意を払い、虐待が見過ごされることがないようにしている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者様があり、研修会の参加で、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点がないよう、説明には十分時間をかけ、納得して頂いた上で、契約頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の意見や要望は、すぐに対応するようにしている。また、運営推進会議にご家族代表に出席頂き、意見、要望を聞き取り、対応している。	利用者の意見や要望は、常日頃の利用者とのコミュニケーションの中で聞き取り、対応している。また、ご家族の意見や要望は、毎月のお便りや事業所訪問時に聞き取り、可能な限り対応している。	運営推進会議を活用して、家族等の意見・要望等を聞き運営に反映させることが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に本社職員が出席し、各スタッフの意見や要望、疑問等を聞く機会を設けている。また、月末には本社への要望書を提出している。	本部職員・管理者・主任・職員の構成で、毎月スタッフ会議を開催し、事業所の運営全般に関わる問題点や意見・要望等を吸い上げて、対策を講じている。対策案については、「要望書」により本部に報告し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム査定や個人評価を行い、給与に反映している。時間外労働は極力行わず、働きやすい環境造りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量に応じて、社内外の研修に積極的に参加し、介護職員としての専門性を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修、情報交換会に参加し、同業者との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点から、ご本人の言葉に耳を傾け、要望に沿ったサービスを提供する為の情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を傾聴し、ご家族・ご本人の立場を勘案しながら、安心してサービスが導入出来るよう、信頼の構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見や要望を丁寧に聞き取り、他職種、他サービスの必要性も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今出来ることが続けられるよう、出来ることは行って頂き、感謝や労いの言葉を掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	買い物や通院等、出来るだけご家族の協力を頂いている。行事にもお誘いし、ご利用者様と過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、電話や手紙の交流等、馴染みの関係が途切れないよう、ご本人の意思に沿いながら対応している。	利用者の友人や知人への手紙・電話等の介助支援を行ったり、利用者の馴染みの美容室の訪問美容を受け入れたり、利用者の馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様間で日頃から交流が図れており、助け合う姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて、相談を受けたり、連絡を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からお一人お一人の言葉を傾聴し、何を求めているのか、心情の把握に努めている。	入居時にはセンター方式により、利用者の今までの生活環境や家族情報の把握に努め、日常支援の中で一人ひとりの状況(態度・言葉・表情等)を把握し、利用者本位の暮らしができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査に時間をかけ、入居後もご本人やご家族から情報収集を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないことを把握し、これまでの生活のペースを乱さず、気持ち良く生活して頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を聞き取り、カンファレンスで共有している。他職種によるサービスが提供されている場合は、意見を取り入れながら、計画書を作成している。	アセスメントを通じて課題分析やご本人やご家族の要望を聞き取り介護計画を作成している。また、ケース会議やモニタリングを通じて、介護目標の達成度評価を行い、利用者の心身の状況変化に応じた介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を個別記録や業務日誌に記入し、情報を共有している。気づきはカンファレンスで共有し、計画書の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じ、訪問マッサージの導入や、医療保険のサービスを導入する等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や民生委員、ボランティア等へ働きかけを行い、地域で安全に暮らすことが出来るよう協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診や訪問診療を取り入れ、健康的な生活を送ることが出来るよう支援している。	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診ができるよう支援しており、受診結果についても、ご家族に報告し適切な受診支援をしている。また医師から処方された薬については、職員複数人による確認や本人への確認等、誤薬防止に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の定期訪問及び24時間オンコール体制により、健康面によるアドバイスを随時受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者、ご家族と連絡を取り合い、早期退院を目指している。また、安心して退院出来るように、関係機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意思を入所時より確認している。ターミナル期に入っても気持ちに変化があれば、その都度対応方法を変更し、臨機応変に対応している。	利用時に、重篤化や終末期のあり方について、ご本人やご家族と話し合いを行い、「事前確認書」で合意形成をしている。また、利用者の状況に変化が生じた場合は、再度意思確認を行っている。現在、看取りの実績はないが、今後、医療機関連携・協力体制の整備や看取りに対する職員の不安の払拭に努めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内外の研修や救命講習を受講し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施している。地域には広報や運営推進会議を通じて協力を仰いでいる。	災害対策についてはマニュアルを整備し、毎月計画的に事業所内で避難訓練を実施している。また、緊急時の連絡網を事務所内に表示し、夜間を想定した訓練も実施している。現在、地域住民や地域消防団との連携を模索している。	建物が川沿いに位置しているため、水害対策のためのマニュアルの整備や防災訓練が望まれる。また、今後の防災対策における地域との協力体制強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修や認知症ケアの研修を受講し、人格を尊重した介護を提供している。	入社時に新任者向けの「接遇マナー研修」や「認知症ケアに関する研修」を受講することとしており、利用者の誇り・人格・プライバシーを尊重した接遇、介護等の対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る機会を作るように心掛け、生活場面では、その都度ご本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活スタイルを大切に、その日その時の気分、要望に応じて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し、服装、髪型等を決めて頂いている。着替えや髪をとかす行為は出来る部分は行って頂き、身だしなみを意識して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	配膳の準備、後片付け等、出来る範囲でお手伝いをお願いし、役割意識を持って頂くようにしている。食事は職員も一緒に摂り、会話しながら楽しく食事を行っている。	法人本部の管理栄養士が作成した献立表により、事業所内で採れた野菜を食材に使い、職員により調理した食事を提供している。明るく清潔な食堂で、職員と共に食事を楽しんでいる。また、配膳の準備や後片付け等も利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分・食事制限や禁忌食を把握し、適度な水分量、食事量が確保出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療連携の歯科衛生士の指導の下、毎食後口腔ケアを行っている。清潔保持と共に口腔内の疾患がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや個々のサインを把握し、失敗を減らす支援をしている。また、排泄動作で出来る部分は行って頂くようにしている。	個人毎に記載された排泄パターンや記録観察データに基づき、各個人の排泄パターンに応じた支援を行っている。結果、失禁回数の軽減やオムツをはずす等の成果を上げている。また、利用者の羞恥心や不安の軽減を図るため、研修会の受講やマニュアル等を通じて対応スキルを習得している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取をして頂き、自然排便を促している。全室個室で、トイレが備わっている為、ゆっくりと排泄出来る環境がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めず、ご本人の体調や希望に応じて入浴されている。また、定期的に法人の保養施設の温泉に行き、入浴を楽しむことのできる支援も行っている。	出来るだけ利用者の意向(曜日・時間・入浴剤の使用)に沿った入浴支援を行っている。明るく清潔な浴室で安全な入浴支援の為のシャワーチェアや浴槽手すり等の装備も充実している。また、毎月一度は法人が経営する保養施設へ行き、温泉入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣や就寝時間を把握し、落ち着いて休める場所で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬記録を読み、薬の内容や副作用等を把握している。また、疑問点があれば、主治医、看護師、薬剤師に相談し、薬に関する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの暮らしの情報を把握し、現在の状態に合わせて、好きなこと、趣味を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて、散歩や外出を行っている。ご家族の協力を得られる方には、買い物や外出をお願いしている。	一人ひとりの希望にそって、事業所の周りの散歩や事業所内の畑での野菜作り、法人の保養施設への定期的な外出、地域イベントへの参加等、日常的な外出の支援を行っている。また、ご家族の協力を得られる場合は、家族との調整を図り、利用者の外出の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭を自己管理されている方もおり、買い物の際に、支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおり、家族と電話のやりとりをされている。ホームの電話から家族や親戚等へ自由に電話出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が心地よく過ごして頂けるように、環境整備を心掛けている。壁の絵画や飾り、置物等は季節感のある物、安らぐもの等工夫している。	共用スペースには、季節に応じた装飾や利用者の手作り作品や写真等が飾られ、明るく通気もよく動線も確保されている。外部環境も閑静な住宅地にて騒音も少ない。また、温度・換気・採光等、状況に応じて職員が調整し、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の相性を把握し、席の工夫をしている。いつも過ごされる居場所が定着しており、好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族に協力を頂き、出来るだけこれまで使用していた物を持参されている。また、好みの物を飾り、安全面も配慮した居室空間を作っている。	入居時は、各個人の暮らしの状況調査を基に、ご家族の協力を得て、馴染みの家具・使い慣れた小物・写真等を持参されている。自由に自室を使用しており、趣味の作品も多数飾られ、ドア表札も一人ひとり個性ある楽しい物となっている。各居室内のトイレや洗面等も職員による掃除・片づけが行き届き、清潔に保たれている。利用者一人ひとりが安心した穏やかな表情で生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違えないよう表札を作り、分かりにくい方には居室へ誘導する看板を作っている。トイレや浴室も手すりを付け、安全に動作出るようになっている。		